

# 日本における中級中国語教育の研究

—中級中国語の基準—

柳 宇 星

Liu YUXING. A study of Intermediate Chinese language Education in Japan —Standards for intermediate Chinese—. *Studies in International Relations*. Vol.43. July 2023. pp.55-64.

This study attempts to establish the criteria for intermediate-level Chinese language proficiency in Japan by first referring to the definition of “intermediate level” within China, analyzing intermediate-level Chinese language teaching materials in Japan, and further examining the definitions of intermediate-level Chinese in both the Chinese Proficiency Test and the HSK exam.

キーワード： 中国語教育 中級中国語教材 中級中国語レベル

## 1. はじめに

ある日本人学生が、どのようなレベルなら中級中国語レベルと言えるのか、中国語検定試験（略称中検）3級に合格していれば中級レベルと言えるのか、筆者に尋ねてきたことがある。この質問は未だに筆者の頭から離れず、どう答えればいいのか分からない。日本の中検3級の認定基準は「一般常用語彙1000以上2000ならびに中国語文法の一般的事項をマスターして、簡単な日常会話ができ、基本的な文章を読み、書くことができるもの。学習時間200～300時間。」とされている。中検は主に筆記力とリスニング力を測ることを目的として、会話力の測定については考慮されていないため、「簡単な日常会話」ができるかどうかまでは知ることができない。また、基本的な文章の読み書きの把握程度についても、明確には測ることができない。そのため、中検3級に合格したとしても、必ずしも中国語中級レベルに達したとは言いがたい。本研究は、中国国内で定義される「中級レベル」についてまとめ、次に日本における中検と中国語能力試験（略称HSK試験）を比較し、更にヨーロッパの外国語の語学力を評価する国際的な指標CEFRと結びつけ、日本における中級中国語の基準を定めようとする試みである。

## 2. 中国における中国語「中級レベル」の基準

まず、中国国内の対外中国語の中級レベルがどのように標準化されているのかを見てみたい。本章の考察は以下の3冊の参考書をもとに行った。それぞれ『高等学校外国留学生漢語教育大綱』、『対外漢語教育中高級段階課程規範』、『中国漢語能力試験受験ガイド』の3冊である。これらの書籍は、中国国内で出版され、応用範囲が広く、一般的な対外中国語書店で買え、更に多くの外国人向け中国語教育機関で採用されている。『高等学校外国留学生漢語教育大綱』は主に短期強化を目的としている参考書である。『対外漢語教育中高級段階課程規範』は対外中国語本科専攻で使われる参考書である。『中国漢語能力試験受験ガイド』は母国語が中国語でない人たちの中国語能力を測るテストのための手引書である。比較的代表的で権威があるものである。従って、筆者は中国国内における対外中国語中級レベルの基準を明確にする際の参考としてこれを採用した。

### 2.1 『高等学校外国留学生漢語教育大綱』における中級レベルの基準

『高等学校外国留学生漢語教育大綱』は中国で短期的に中国語を学ぶ留学生のために制定され、短

期強化教育の特性を踏まえ、教育内容と教育要領を標準化し、教材作成、テスト、教育の質の評価にあたっての根拠を提供することを目的としている。本大綱の中級段階の教育要領は次の通りである。

【表－1】：『高等学校外国留学生漢語教育大綱』の中級段階に対する教育要領一覧

	中級段階
コミュニケーション課題	中級コミュニケーション課題は80項目である。中級コミュニケーション課題：主に「ナレーション」、「説明」、「判断」などの機能的な項目と、比較的完全なステートメント、説明、分析、及びデモンストレーションを含む、パラグラフで表現する必要がある一般的なコミュニケーション課題。コミュニケーション課題の難易度と複雑さによって、中級コミュニケーション課題は2つのレベルに分けられる。
言語範囲	関連した語彙範囲：レベル甲、乙及び丙で5000語。少なくとも丙レベルの語彙を主とする1500語を習得することを要求する。関連した文法範囲：レベル甲、乙及び丙の文法、ポイント652点。
話題内容	一般的な日常生活、学習、社会的コミュニケーション活動及び一定範囲の家事。
言語能力	一般的な話題についてはほぼ支障なく会話ができ、且つ、一般的な文章を書くことができる。語句を適切に使い、それを適切に並べ、基本的な形として表現し、自らの意見や思想、感情をほぼ正確に表現することができる。一般的な交渉や商談ができ、一定の業務範囲内のビジネス文書を書くことができる。比較的複雑な文型を一定程度使用することができる。一定の言語運用能力を有する。
文化的内容	言語コミュニケーションに関連する文化的要因、コミュニケーションに関連する一般的な文化的背景及び中国の国情に関する知識を理解、習得し、コミュニケーションに際して遭遇する可能性のある文化的障壁を取り除くことに注意を払うことができるようになること。

## 2.2 『対外漢語教育中高級段階課程規範』における中級レベルの基準

『対外漢語教育中高級段階課程規範』の対象は外国人留学生漢語専攻（4年制大学本科）2年生または同等レベルの中国語学習者である。これらの学習者は、初級段階（1年生）の学習を経て、音声と文法の基礎知識、基本的な常用文型（レベル甲、

乙の文法約150点）、常用漢字約1200字程度、常用文型約2500語を習得していなければならない。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの分野で基本的な訓練を受け、基本的な能力を備えている。2年目の学習を通して、語彙はさらに増え（2500語から4500語に増加）、基本文法項目を強化、補充、拡大、深化する（レベル甲・乙の150点からレベル甲・乙・丙の300点に増加）。その具体的な要求は次の通りである。

### 1. 聞く

豊富で複雑な単語の説明、文法分析、テキストの言語の説明、関連する文化的背景知識の紹介を理解できること、テキストの内容や一般的な日常生活の学習場面について、教師から出される様々な質問を理解できること（丙レベルの語彙と文法は40%を超えず、話す速度は1分間に180字～220字の漢字）、一般的な社会生活や仕事の場面（手続き、契約、ビジネス交渉、就職活動）で、お互いの会話を理解し、主要な情報を得ることができること。

### 2. 話す

テキストの内容について教師と質疑応答ができる（新しい単語の説明、文章の作成、質問、その質問への回答、段落の要約、テキストの復唱などを含む）、日常生活、学習、仕事に関する一般的な会話ができる（例えば、ある出来事についてより具体的に説明する、登場人物を紹介する、特定の物事について意見や提案を述べる、議論において自分の意見を述べたり、相手に反論したりするなど）。言語のイントネーションは基本的に正しく、文章は比較的まとまりがあり、単語と文型は比較的豊富で、大きな文法上の誤りがなく、基本的な考えを表現できる。

### 3. 読む

読解力を徐々に向上させる。参考書があればテキストと同等の難易度の文章を読むことができる。一般的な生活、社交、仕事の範囲内の手紙、申請報告書などの書類を読むことができる。一定の単語を推測し、ポイントを掴み、言語の壁を乗り越える能力を持ち、甲、乙、丙レベルの語彙と文法の難易度の文章を、ツールブックを使わずに、理解度60%～70%の正確さで読むことができる。

#### 4. 書く

講義の内容に応じて簡単なノートを作ることができる（例：例文、文法的なキーセンテンス、簡単な段落の意味などを記録する）；授業後に、授業内容レポートを完成することができる；学習した単語、構造、文型を応用し、所定のトピックに従って、30分で、200～300語程度の文章、談話表現、また内容が充実した流暢な文章で日常生活、学習、仕事の場面に関する小論文（具体的には短い手紙、自己紹介、仕事の報告、仕事の要約、スピーチの概要など）を書くことができる；レベル丙の語彙・文法に占める項目の割合は約20%で、基本的に大きな文法上のミスがなく、自分の考えを表現することができ、ディクテーションのスピードは1分間に15字から18字の漢字を書くことができる。

### 2.3 『中国漢語能力試験受験ガイド』における中級レベルの基準

HSK試験は、中華人民共和国の国家レベルの試験であり、中国語を母国語としない人を対象とした標準化された語学試験である。HSK試験は北京語言文化大学の中国語能力試験センターによって設計・開発され、基礎中国語能力試験（略称HSK基礎）、初中級中国語能力試験（略称HSK初中級）、高級中国語能力試験（略称HSK高級）で構成されている。HSK試験は中国国内外で毎年定期的に実施され、試験の点数が所定の基準を満たした者は、対応するレベルの「中国語能力証明書」を取得することができる。

#### 2.3.1 HSK（中級）試験の用途

2007年5月に北京言語文化大学出版社が発行した最新の「中国語能力試験（HSK）[改良版]」によると、HSK（中級）試験について、以下のように解説されている。

- ① 留学生が中国の大学に入学する際の基準とする
- ② 各組織の採用・昇進プロセスにおいて、関連人材の中国語能力を評価する際の判断基準とする
- ③ 中国語学習プロセスにおける中国語能力評価の信頼できるツールとして利用する

#### 2.3.2 HSK（中級）試験の対象

HSK（中級）試験は母国語が中国語ではない中級中国語学習者に適用される。約1000～2000時間の中国語教育を受け、約5000語の一般的な中国語単語とそれに対応する文法及び文化的背景知識を習得している学習者すべてに受験資格がある。

上記の内容から、中国国内でHSK試験の中級レベルに到達するには、約5000語の一般的な単語とそれに対応する文法的及び文化的背景知識を習得する必要があり、加えてリスニング力、文法、読解、総合の4つの試験のうち3つに合格しなければならない。このことから、学習者がHSK試験の中級レベルに達することは、容易なことではないことがわかる。

#### 2.4 まとめ

以上の2.1、2.2、2.3の資料から、中国国内の対外中国語中級レベルの基準が明らかになった。比較のため、内容を以下の表2にまとめた。

[表-2]：3冊の中国国内参考書の中級レベルに対する教育要領一覧

	高等学校外国留学生漢語教育大綱	対外漢語教育中高級段階課程規範	中国漢語能力試験受験ガイド
指導対象	短期留学生	専攻2年生	1000～2000時間学習者
語彙数	レベル甲、乙及び丙で5000語	2500語から4500語に増加	常用語5000語
文法	レベル丙の文法300点	レベル甲、乙の150点からレベル甲、乙及び丙で300点に増加	常用語5000語及び対応する文法、ポイント

上記の数字から、中国では、中国の短期留学生でも、中国語を専攻する2年生の学生（4年制大学本科）でも、語彙約5000語を習得する必要があることが分かる。さらには甲、乙、丙レベルの300の文法項目、ポイントの習得が必要である。柳宇星（2021）によると、日本人学生全員が初級終了までにマスターしなければならない語彙数は518語である。柳宇星（2012）の初級レベルで中国語専攻以外の学生がマスターした語彙数は742語、初級レベルで中国語専攻の学生がマスターした語

彙数は1025語である。これらの数字から判断すると、中国の中級レベルに必要な語彙とはまだ大きな隔りがあり、日本における学習者に適した中級レベルの基準の設定を検討する必要がある。中国国内の3冊の参考書の研究成果は非常に価値があり、今後の研究はこの3冊の大綱の研究方法を参考しながら、日本における中級中国語の基準を定めようと考えている。

### 3. 日本における中国語「中級レベル」の基準

この章では、前章と同じ方法により、日本において最も権威がある試験とされる、中検とHSK試験を対象に、ヨーロッパで外国語の学習者の習得状況を示す際に用いられるガイドライン「CEFR（セフール）」と結び付けることにより、日本における中級中国語の基準を定めたいと考えている。

【表-3】：日本における検定試験の年間受験状況

（※中検は2016年のデータ。HSKは2015年のデータ。）

検定試験	年間受験者数	1回あたりの受験者数
中検	32,902人	平均10,967人
HSK	23,426人	平均1,952人

\* 以上データは中検・HSKなどの受験者数（中検・HSKなど4種類の中国語検定試験の比較【難易度・受験者数など】(chugokugo-script.net)を参照。

中検とHSK試験この二つの試験は日本での利用者数が最も多く、そして近年受験者数が徐々に上昇している傾向があるようである。そこで、本研究ではこの二つの試験を研究対象とし、次の節でそれぞれ分析する。

#### 3.1 中検の認定基準

中検は、主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とし、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力、いわゆる四技能の習得を求めながら「訳す」能力も重視している試験である。中検は外国語学習と運用のプロセスを分析し、より科学的に設計されている。下の級では「運用能力」、上の級では「読解力」を測る問題の比重が上がっている。さらに、日本は漢字文化圏に属し、幼時期より漢字・漢語

語彙に親しんでいる日本人にとって、中国語の「読解能力」を高める漢字・漢語語彙がすでに存在し、その知識はさまざまな場面で重要な役割を果たしているため、中検はこれらのことも十分に配慮して試験問題が作られている。具体的な基準は下記の表4のとおりである。

【表-4】：中検の出題基準

級	出題内容
準4級	基礎単語約500, 日常あいさつ語約80から ○単語・語句の発音, 数を含む表現, 日常生活における基本的な問答及びあいさつ表現の聞き取り ○単語・語句のピンイン表記 ○基礎的な文法事項及び単文の組み立て ○簡体字の書き取り
4級	常用語約1,000から ○日常生活における基本的な問答, 比較的長い会話文または文章の聞き取りと内容理解 ○単語・語句のピンイン表記・声調 ○基本的な文法事項及び文法事項を含む単文の組み立て ○比較的長い文章の内容理解 ○日本語の中国語訳（記述式）
3級	常用語約2,000から ○日常生活における基本的な問答, 比較的長い会話文または文章の聞き取りと内容理解 ○単語・語句のピンイン表記・声調 ○基本的な文法事項及び文法事項を含む単文・複文の組み立て ○比較的長い文章の内容理解 ○日本語の中国語訳（記述式）
2級	日常生活全般及び社会生活の基本的事項における中国語から ○日常会話及び長文の聞き取りと内容理解 ○長文読解と長文中の語句に関する理解 ○正しい語順と語句の用法, 熟語・慣用句を含む語句の解釈 ○長文中の指定語句の書き取り及び指定文の日本語訳（記述式） ○日本語の中国語訳（記述式） ○与えられた語句を用いたテーマに沿った中国語作文（記述式）
準1級	日常生活及び社会生活全般における, 新聞・雑誌・文学作品・実用文のほか, 時事用語などを含むやや難易度の高い中国語から（一次） ○長文の聞き取りと内容理解 ○長文中の指定文の書き取り（記述式） ○長文読解と長文中の語句に関する理解 ○語句の用法, 熟語・慣用句を含む語句の解釈 ○長文中の指定語句の書き取り及び指定文の日本語訳（記述式） ○比較的長い日本語の中国語訳（記述式）

準 1 級	○与えられた語句を用いたテーマに沿った中国語作文（記述式） （二次） ○日常会話、簡単な日本語・中国語の逐次通訳及び中国語スピーチ
1 級	日常生活及び社会生活全般における、新聞・雑誌・文学作品・実用文のほか、時事用語などを含む難度の高い中国語から （一次） ○長文の聞き取りと内容理解 ○長文中の指定文の書き取り（記述式） ○長文読解と長文中の語句に関する理解 ○語句の用法、熟語・慣用句を含む語句の解釈 ○長文中の指定文の日本語訳（記述式） ○比較的長い日本語の中国語訳（記述式） ○与えられた語句を用いたテーマに沿った中国語作文（記述式） （二次） ○難度の高い日本語・中国語の逐次通訳

\* 以上データは出題内容 | 中検 | 中国語検定試験 (chuken.gr.jp) を参照。

表4の通り、各級の「基準」及び「出題内容」については明示されているが、どの級が「中級レベル」であるかの基準は明示されていないため、更に検討する必要があると考える。

### 3.2 HSK試験とCEFR（セファール）

ヨーロッパ諸国間の調和を促進し、ヨーロッパ内での教育や就職の柔軟性を高め、異なるヨーロッパ言語（英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語など）の言語能力レベルを記述するための統一的な枠組みを提供するために、1996年に欧州評議会（CE、ヨーロッパ46カ国の外相からなり、25カ国以上の欧州連合）が「ヨーロッパ言語共通参照枠：学習、指導、評価、(CEFR)」基準を公布した。これは瞬く間に世界で最も影響力のある言語基準となり、世界中の多くの言語のテストスコアを解釈する基準にもなっている。

中国では、CEFRに大いに触発され、CEFRに基づき、中国語の国際的普及のための国家指導グループ（略称：漢弁）が2007年に国際中国語能力基準を公布した。新HSKの1～6級は、CEFRのA1～C2の6段階にそれぞれ対応している。「2010年、中国国外の中国語学習者にとってより役立つ中国語検定試験に改善するため、中国国内外の中国語教育、言語学、心理学、教育学等の専門家を集結さ

せ、近年の国際的な第二言語習得理論（SLA：Second Language Acquisition）及びコミュニケーション言語テスト理論による新しい研究成果を参考に、「新HSK試験」が研究開発されました。新HSK試験は、あらゆるレベルの学習者に対応できるように、試験難易度の幅を広げ、各段階での学習者のニーズを満たすことを目指しました。また、単なる言語知識の測定ではなく、受験生が中国語を運用し、実際にコミュニケーションを行う能力を測定・評価することを目的としています。現在のHSK試験は、中国語によるコミュニケーション能力の測定を第一の目的とした実用的な中国語検定です。中国での実際のコミュニケーションで使用される会話形式の問題や、リスニング、スピーキング能力の測定に重点をおいた試験となっています。】\*1

ここに紹介したHSK試験は中国の教育部が世界展開している資格で、日本での運営は学習塾団体の日本青少年育成協会が担っており、完全に日本人学習者向けの中国語能力試験である。残念なことは、この試験でもはっきり中級レベルの基準を定めていなかったことである。

本研究の目的の一つは外国語の語学力を評価する国際的な指標CEFRを参考にし、HSK試験とCEFRを比較しながら日本人学習者向けの中国語中級レベル基準を探ることである。「CEFR（セファール）とはヨーロッパ全体で、外国語の学習者の習得状況を示す際に用いられるガイドラインである。英語ではTOEIC、TOEFLなどについて、この指標を用いて評価することが可能である。】\*2。CEFRは、非母国語学習の観点から設計された言語間の能力等級フレームワークである。CEFRは言語能力指標を定義し、具体的な機能と関連する要因は以下の通りである。

#### ①一般能力

知識、人格特性、技術、そして学習能力を含む。

#### ②言語コミュニケーション能力

言語能力、社会言語能力、語用論能力が含まれる。言語能力には、音韻論、単語形成、意味論、文法などが含まれる。社会言語能力は、礼儀作法、性別、階級、その他の言語的差異

といった社会的文化的要因に関係し、語用論能力には、言語機能、言語の一貫性、テキストのタイプに関係する。

### ③言語活動

聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、インタラクションが含まれ、聞くことと読むことは言語受容行為であり、話すことと書くことは言語生産行為であり、対話、対談、討論などは言語インタラクション行為である。

### ④社会的背景

言語使用の社会的文脈は幅広く、(1) 生活の4つの領域（家庭生活、公共の場、仕事の場、教育の場）、(2) 状況（人、出来事、時間、場所など）、(3) 条件（会話環境、参加者人数、時間の制約など）、(4) テーマ（食べ物、レクリエーションなど）、(5) 機能（カウンセリング、識別、助言、説明など）、(6) タスク（例：就職活動、道を尋ねる、プレゼンテーションをする、など）、(7) メディアの種類（例：対面、電話、テレビ、録音など）、(8) テキストの種類など（例：式典、討論、インタビュー、新聞、日記、手紙など）、(9) ストラテジー（例：自己修正、繰り返し、明確化など）などを含む。

CEFRでは、言語能力を包括的な言語能力とコミュニケーション能力と定義しており、従来のような純粋な言語能力や認知能力ではなく、言語の機能、つまり実生活の場面で機能する能力に焦点を当てている。また、社会環境における言語能力の重要性を強調しており、言語環境なしには、コミュニケーションや意思疎通について語ることはできない。このように、CEFRの評価基準は、言語能力そのものを十分に考慮し、言語能力に関連するその他の外的要因にも配慮していることがわかる。

HSKは2010年のリニューアルでCEFRと合致するように設計されたため、欧米各国の外国語テストとの互換性から難易度の比較がしやすくなった。見方としては、レベルを「A 基礎段階の言語使用者」、「B 自立した言語使用者」、「C 熟達した言語使用者」に分け、各段階をさらに2つに区分している。詳細な比較については、資料1を参照されたい。

## 3.3 まとめ

本節の考察により、日本人向けの中国語中級レベルの基準を規定することが可能となった。結論としては、中検4級500語～中検3級2000語、HSK3級600語をマスターし、「仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のある文章を作ることができる。経験、出来事、夢、希望、抱負を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。」\*2という条件を達成すれば、「世界基準で中級者」レベル認定することが妥当だと判断できる。詳細な比較については、資料1を参照されたい。

## 4. 中級中国語教材の編集

### 4.1 動機

近年、中国と日本の交流が盛んになり日本での中国語教育も新たな段階に入っている。教育において、筆者は中国語学習をするには2つの重要な段階があると考えている。第1段階は発音の入門段階、第2段階は中級応用段階である。中国語を学習するにはまだ多くの重要な段階があることは事実だが、筆者がこの2つの段階を提案する理由は、この2つの段階が学習の焦点であるだけでなく、学習の難しさでもあるからだ。中国語をしっかりと勉強したい場合、この2つの段階をスムーズに通過することが持続的な学習を保証する鍵となる。

授業を通して、筆者は、中国語の勉強に興味がある日本人は多いが、発音の授業を受けた後では、学習していく自信を失った学生も多くいることに気付いた。更に、多くの学生が努力して遂に中国語検定試験3級またはHSK試験4級、5級のレベルに達したが、中国語検定試験2級またはHSK試験6級レベルに到達するのは非常に少ない。中国語の発音が難しいことはよく知られているので、中国語を学ぶ前にすでに心の準備をしている人は多いが、中級段階に到達することの難しさは多くの学生が予想していない。特に日本国内で学習する

場合、周囲の言語環境が整わず、聞くこと、話すことの鍛錬に大きな困難が生じる。文法を精巧に勉強し、テキストと単語をしっかりと暗記したとしても、実際に応用する時には、話すことも聞き取ることもできない。話せたとして「中国人には意味が伝わらない、日本人は聞き取れない」ような奇妙な中国語である。初級段階から中級段階への移行は、かなりの時間と相当な努力が必要で、更に多くの努力を重ねても、予想された効果が得られるとは限らない。

そのため、筆者は長い間、中級中国語学習者がより速く、よりよく中国語を学ぶ方法を見つけることに尽力してきた。長年の研究と分析を通して、最も直接的な方法は、中級レベルに相応しく、学習者の学習意欲を高めることのできる中級教材一式を開発することだと考えている。教材をテレビドラマの台本に例えたとしたら、教師はその台本を演じる役者だといえる。ドラマが完璧に世に送り出されるかどうかは、役者の演技と、台本がよく書けているかどうかにかかっている。従って、筆者は良い教科書を使えば、半分の労力で中国語を学ぶことができると考える。もちろん、どんなに優れた教科書にも欠点があり、すべての人のニーズを完全に満たすことはできない。また、教科書に頼りすぎるという指導方法を、さまざまな中国語教育の現場に適応させることは難しいが、教科書がなければ「頼るものがなく」、学習者の学習状況や学習効果を確認することはできない。そこで、日本人学習者の言語的・文化的背景に応じて、中級中国語教材を刷新し、従来の教材の限界を超え、日中両国の中級中国語レベルの基準を参考にし、日本における中級中国語レベルに適した教材の編集に努めようと考えた。

#### 4.2 『本気で学ぼう中級中国語』の構成

『本気で学ぼう中級中国語』は、日本大学国際関係学部中国語教科書編集チームが呉川先生の監修のもとで作成した教材である。本書は『本気で学ぼう初級中国語』に基づき、初級段階の学習を通じて中国語の発音、簡単な会話、そして体系的な文法を習得した中級学習者向けの中国語教材である。中級では、中国語を勉強するだけでなく、中

国概況・中国文化・中国事情などの一般知識の習得が必要となる。本書はやさしく楽しく中国語学習を続けられ、且つ中国について深く興味を持っているような教材を目指し、意欲的に学習してもらえるよう編集した。

本書は中国語2年目学習者を対象とし、一回90分の授業、二回で一課のペースで学習することを基準としている。テーマは学校生活、社会・中国事情、歴史遺産、歴史上の人物、成語、日中交流の歴史などから構成した。また、本書では最近10年の調査に基づいて使用率が高い821語を精選し、文法ポイント121点、初級で学習した文法を更に深めた内容に加えて、中級で大切な「接続詞フレーズ」も豊富に取り上げている。

第一課～第七課は、初級の内容を復習しながら、身の回りの話題について自由に話す練習、第八課～第十四課では、現在の中国社会事情を理解する内容、第十五課～第二十一課では、中国人の習慣と考え方を説明する内容、第二十二課～第二十八課は中国文化、中国の歴史に興味を持たせる内容となっており、中国に関する話題を楽しく効率よく学べるように編集した。

本書は文法を習得するための文型練習をしながら、会話能力をアップするための短文を学習する。練習1、練習2では中国語検定試験方式のヒアリング問題を中心として、ネイティブの中国人の声を聴きながら、聴解能力をアップさせ、資格試験にも対応できる内容となっている。練習3は本課の重要ポイントを使って文を作るもので、中級レベルの言語応用能力を身に付けられるようにしている。練習4は日本語を中国語に訳す、練習5は本課の内容に基づいて作文を書く練習となっており、これが最終の学習目標となる。一冊で「聞く」「話す」「読む」「書く」「訳す」の五つの技能をトレーニングできるオールインワンの中級教材となっている。

#### 4.3 『本気で学ぼう中級中国語』の編集原則

『本気で学ぼう中級中国語』を編集した後、この教材は前章でまとめた日本における中級レベルの基準を満たしているかどうかを検証するため、表5を作成し、語彙数、文法点、話題などを資料1と対照した。

【表-5】：『本気で学ぼう中級中国語』の語彙数と中級レベル基準との対照

本気で学ぼう	中検4級 中検3級	HSK3級 HSK4級	CEFRB1 CEFRB2
821語	500～ 1200語	600～ 1200語	

表5のとおり、本書の語彙数は中級中国語レベル基準（資料1）に合致している。

文法点については、中級中国語レベル基準（資料1）では特に強調しておらず、柳宇星（2012）によると、中国国内の対外中国語中級レベルについては150点を習得すれば中級レベルに妥当とされているため、本書では文法ポイント121点を取り扱い、初級で学習した文法を更に深めた内容に加えて、中級で日本人が苦手とするが、重要な「接続詞フレーズ」も豊富に取り上げている。中国国内の対外中国語中級レベルの150点までには達していないものの、中国国外の日本における中級中国語には適すると考える。

本書のテーマは学校生活、社会・中国事情、歴史遺産、歴史上の人物、成語、中日交流の歴史などを中心とし、中級中国語レベル基準に求められる仕事、学校、娯楽など普段よく出会う身近な話題と一致する。詳細は、下記の表6にまとめた。

【表-6】：『本気で学ぼう中級中国語』のテーマと中級中国語基準との対照

第一課 自己紹介	学校
第二課 友達の紹介	学校
第三課 学校生活	学校
第四課 私の一日	学校
第五課 中国の大学	学校
第六課 手紙	自分
第七課 乗り換える	交通
第八課 中国のゴールデンウィーク	祝祭日
第九課 ウィチャット	通信
第十課 ネットショッピング	買い物
第十一課 高速鉄道	交通
第十二課 老後の生活	生活
第十三課 欠席届と招待状	仕事
第十四課 日中生活習慣の違い	意見
第十五課 中国の伝統的な祝日	祝祭日
第十六課 民は食を以て天と為す	意見

第十七課 読書感想文	意見
第十八課 中華料理を作りましょう	出来事
第十九課 故郷	自分
第二十課 中国の干支	中国文化
第二十一課 外来語・新語	言葉
第二十二課 孔子	中国文化
第二十三課 守株	中国文化
第二十四課 囲碁の歴史	中国文化
第二十五課 お茶の起源	中国文化
第二十六課 サッカーの由来	中国文化
第二十七課 鑑真の渡日	中国文化
第二十八課 中国の漢詩	中国文化

柳宇星（2012）により提示された中国国内の対外中国語中級教材の不足：

1. 内容、言語材料が比較的古く、題材、ジャンルが比較的単一である。
2. 新しい単語のアレンジは科学性に欠けている。
3. 注釈点の決定は十分に合理的でなく、注釈点と新しい単語、及び練習の間では連携が足りていない。
4. 練習タイプは単調で、系統性、目的性が欠けている。

本教材の編集に際しては、以上の欠点を充分克服し、下記の編集原則を厳守した。

#### （1）編集原則

教材の質を確保するため、編集原則は明確で合理的である。

1. 構造－話題の教育法原則を採用し、すなわち言語構造を網領とし、話題を導くものとする。
2. 使用対象を明確にし、新しい単語の起点と等級の比率を確定する。
3. 精読授業の授業型の特徴と中級段階の学習の特徴を十分に体現する。
4. 科学性と実用性を重視する。
5. 汎用性と耐久性を重視する。
6. 知識性と面白さを高める。

#### （2）全体的なデザイン

上記の編集原則に基づき、著者は新教材の構造配置から具体的な部分の配置まで、精巧に設計した。

1. 構造的な配置。カリキュラムを十分に配慮し、文型と会話を合わせる形式を採用し、各課はヒ

ント、注釈、トレーニング、新語表の4パートで構成され、1課は2単位時間で完了する。時間が長すぎると、コンテンツの継続性が損なわれる。

2. メイン、サブの選択と協力。文法を習得するための文型練習をしながら、会話能力をアップするための短文を学習し、文型をメインで学習、習得した文型をサブの会話の中で十分に練習する。

3. 「聞く」「話す」「読む」「書く」「訳す」の五つの技能を全面的にトレーニングできる。練習問題の作成は、中国語検定試験、中国語能力試験など資格試験に対応できる内容とし、重要ポイントを使って文を作り、また、日本語を中国語に訳す問題を設けることで、一冊の教材で「聞く」「話す」「読む」「書く」「訳す」の五つの技能をトレーニングすることを目的とした中級教材を目指して工夫した。

4. 単語のアレンジ。新しい単語の編成には主に2つの面に注意を払った。

(1) 新しい単語の数と等級の比率をコントロールする。

(2) 単語表を改善する。あえて単語表を一番最後におき、単語表を見つける作業のなかで、ページをめくりながら、知らない単語を頭の中に深く印象づけることを目的とする。

以上の編集原則については、すべて日本における中級中国語の基準に基づき、よりよい教材を作成できるよう全力を注いでいる。『本気で学ぼう中級中国語』の編集出版は中級中国語教材として使用することのみならず、今後日本における中級中国語教材編集の範例となることを期待している。

## 5. 今後の研究課題

### 5.1 本研究の研究成果

以上4章の考察と分析から、以下の成果が得られた。

- 1) 中国における中国語「中級レベル」の基準の明確化
- 2) 日本における中級中国語の基準の明確化
- 3) 『本気で学ぼう中級中国語』の教材を編集することを通じ、日本の中級中国語教材の編集原則の明確化

### 5.2 今後の研究課題

研究の過程において、依然として更なる推敲が必要であり、今回得られた結果も完全とは言えないことをあらためて認識した。筆者の考える今後の課題は次の通りである。

- 1) 研究結果の更なる検証
- 2) 中級語彙表の作成
- 3) コミュニケーションを主とした中級教材の本文の話題の選定

以上の課題について、筆者は今後も継続して研究を行い、更に深く、正確なデータを抽出し、日本の中国語教育に微力ながら貢献したいと考えている。

### 参考文献

1. 柳宇星, 「针对日本人学习者的初中级汉语教材研究-以词汇和课文话题为考察中心」, (明海大学大学院博士論文), 161～175頁, 2012年
2. 柳宇星, 「日本における初級中国語教育の研究—語彙の視点から—」, 『国際関係研究』第41巻合併号, 日本大学国際関係学部国際関係研究所, 126～127頁, 2021年
3. 国家对外汉语教学领导小组办公室, 『高等学校外国留学生汉语教学大纲(短期强化)』, 北京语言文化大学出版社, 53-58頁, 2002年
4. 陈田顺, 『对外汉语教学初级阶段教学大纲』, 北京语言文化大学出版社, 30～38頁, 1999年
5. 北京语言大学, 『中国汉语水平考试(HSK)[改进版]』, 北京语言大学出版社, 3～5ページ, 2007年
6. 日本大学国際関係学部中国語教科書編集チーム, 『本気で学ぼう初級中国語』, 郁文堂出版社, 118～126頁, 2023年
7. 日本大学国際関係学部中国語教科書編集チーム, 『本気で学ぼう中級中国語』, 郁文堂出版社, 113～124頁, 2023年

\*1 HSKとは | HSK 日本で一番受けられている中国語検定 ([hskj.jp](http://hskj.jp)) 参照

\*2 CEFRとは | HSK 日本で一番受けられている中国語検定 ([hskj.jp](http://hskj.jp)) 参照

資料1 日本における中級中国語レベル基準

中検		HSK		CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠)	
1 級	—	—	—	—	—
準1 級	6 級	5000 語以上	C2Mastery 世界基準で熟練者	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができる。含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確でしつかりとした構成の詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることができる。	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
2 級	5 級	2500 語	C1Effective Operational Proficiency 世界基準で上級者	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解することができる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる。さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができる。含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確でしつかりとした構成の詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることができる。
3 級	4 級	1200 語	B2Vantage 世界基準で準上級者	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいての事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解することができる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる。さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
4 級	3 級	600 語	B1Threshold 世界基準で中級者	ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、住所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常の事柄なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいての事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
準4 級	2 級	300 語	A2Waystage 世界基準で初級者	具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表现と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができる。どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はつきりと話して、助け舟を出してくれらるなら簡単なやり取りをすることができる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいての事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
—	1 級	150 語	A1Breakthrough 世界基準で初學者	—	具体的な欲求を満足させるため、よく使われる日常的表现と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができる。どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はつきりと話して、助け舟を出してくれらるなら簡単なやり取りをすることができる。
—	—	—	—	—	—

\* 以上データは中検・HSK など4種類の中国語検定試験の比較【難易度・受験者数など】(chugokugo-script.net)とCEFRとは|HSK 日本で一番受けられている中国語検定(hskj.jp)を参照。